



山形大学

校友会 会報

Yamagata University Koyukai

No.01
September 2011

創刊号

Contents

校友会会長あいさつ

山形大学長あいさつ

新役員紹介

平成22年度事業報告

平成23年度事業計画

校友会の主な支援事業など





山形大学校友会会長あいさつ

会長 相馬 健一

去る3月11日に東北地方を襲った地震と津波は、未曾有の被害をもたらしました。被災された数多くの皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。

山形大学は、昭和24年5月に、文理、教育、工及び農の4学部をもつ新制大学として設置されました。以来、時代の要請に応えるべく着実にその歩みを進め、拡充発展して参りました。その間、多くの有為な人材を社会の諸分野に送り出し、社会の発展に大きく寄与してきております。

山形大学が真にその目的を達成するためには、教育環境の整備とともに教育内容の充実を図ることが不可欠であります。さらに学生生活の全学的な活動に助成等支援することによって、豊かな学生生活とともに、学生の人間形成を助長するための方策を促すことも重要であります。

そこで、各学部同窓会、各学部後援会等のご理解を得て、本学の学生、卒業生、役員、教職員（退職者を含む）及び本会の趣旨に賛同いただいた方々等が相互の連帯感を強め、学生の学業及び課外活動等学生生活の全学的な活動に支援を行い、健全な成長と分散キャンパスの一体感の醸成活動を援助するための組織として、平成18年12月に「山形大学校友会」が設立されました。

このたび、設立5周年を機に、会員の皆さまに本会の活動内容を広く紹介するとともに、未加入の皆さまにおかれましても、本会の趣旨・活動にご理解・ご賛同いただきたく、ここに「山形大学校友会会報（創刊号）」を発行することといたしました。

本会の活動状況については、本会報はじめ、順次ホームページ等においてもご紹介を申し上げることとしておりますので、卒業生、教職員等の皆さまには、校友会へのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

あいさつ



山形大学長あいさつ

学長 結城 章夫

山形大学校友会には、毎年、「学生の海外留学」や「サークル活動」などの学生支援をはじめ、創立60周年の際に制定した「大学歌の制定・普及」など各種事業に多大なるご支援とご協力を賜り、改めて厚くお礼申し上げます。

また、先の東日本大震災では、本学でも学生2人が死亡するなど、300人を超える多くの学生が被災しました。被災学生を支援するため、本学の教職員が中心となり「山形大学被災学生支援基金」を立ち上げましたが、山形大学校友会からも、多額のご支援を賜りまして、重ねてお礼申し上げます。

山形大学は、時代の要請に応えるべく着々と拡充発展し、全学で約1万人の学生を擁する東北地方有数の総合大学となりました。山形大学は、何よりも学生を大切に教育を重視する基本理念を掲げ、卒業生からも「山形大学で学んで本当に良かった。」と言っていただけるよう、いつも学生が主役となる大学創りを目指しております。

今後とも、教育理念の実現に向け、山形大学校友会と山形大学とが密接に連携協力して参りたいと存じますので、引き続き、皆さまの温かいご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

あいさつ

新役員紹介（平成23年9月1日現在）

役 職	氏 名	推薦部局等
会 長	相馬 健一	学長推薦
副会長	結城 経治	学長推薦
〃	須賀 一好	地域教育文化学部
理 事	池野 英哉	人文学部後援会
〃	大山 則幸	地域教育文化学部後援会
〃	岡崎 真治	理学部後援会
〃	渡部伸一郎	医学部医学科後援会
〃	佐竹 亨	医学部看護学科後援会
〃	上村 勲二	工学部後援会
〃	関井美喜男	農学部後援会
〃	長沼 龍平	ふすま同窓会（人文・理）
〃	酒井 順一	地域教育文化学部同窓会
〃	加藤 丈夫	蔵王会（医・医学科）

役 職	氏 名	推薦部局等
理 事	叶谷 由佳	樹氷会（医・看護学科）
〃	山崎洋一郎	社団法人米沢工業会（工）
〃	齋藤 博行	鶴窓会（農）
〃	小山 清人	山形大学 理事
〃	阿部 宏慈	人文学部
〃	佐藤 圓治	理学部
〃	山川 光徳	医学部
〃	東山 禎夫	工学部
〃	高橋 敏能	農学部
〃	斎藤 洋男	事務職員
監 事	丸山 俊明	
〃	塚原 初男	
顧 問	結城 章夫	山形大学長

山形大学校友会の設立等

- 平成18年12月6日に開催された「各学部同窓会・後援会と山形大学との情報交換会」で山形大学校友会の設立が承認され、翌年3月9日の第一回理事会で役員等を選出し、平成19年度から各種事業を開始しました。

- 現在の会員数（平成23年6月末現在）

10,971人（学生 10,928人 卒業生 33人 教職員等 10人）

平成22年度事業報告

1. 理事会の開催

第8回：平成22年7月29日

（議題）平成21年度事業報告及び収支決算
平成22年度事業計画など

第9回：平成23年2月18日

（議題）平成22年度事業の進捗状況
平成23年度事業など

2. 専門委員会の開催

第5回：平成22年7月1日

（議題）平成21年度事業報告及び収支決算
平成22年度事業など

第6回：平成23年1月31日

（議題）平成22年度事業の進捗状況
平成23年度事業など

3. 学生支援事業

（修学関係支援）

① 成績優秀な学生に対する留学支援

24名（人文5、地域教育5、理4、医8、工2）の学生が、8ヶ国9地域へ留学し、語学力向上や異文化理解を図った。

② 大学間交流協定大学への短期派遣留学生支援

6名（人文2、地域教育3、工1）の学生が、米国、中国、エストニアに留学（6ヶ月～1年間）し、異文化理解やコミュニケーション能力の向上を図った。

（課外活動関係支援）

③ 山形大学雪合戦大会支援

第2回雪合戦大会を2月12日に米沢キャンパスで開催。
全学から15チーム、175名が参加。

④ 4キャンパス間大学祭等学生交流の支援

各キャンパスの大学祭実行委員を他のキャンパスへ派遣し、大学祭の連携に向け情報収集、意見交換等を行った。

⑤ サークル活動等に対する遠征費等の支援

全国大会出場5団体（陸上、空手、女子バスケ、野球、トライアスロン）に支援。

⑥ 科学で山形盛り上げ隊への支援

サイタセンター学生スタッフに対し、実験カーダンス、出前実験等の支援。

⑦ 公認サークルへの支援

小白川サークル会ほか3団体、280サークルへ支援。

（就職関係支援）

⑧ 学生中心に行う首都圏での企業訪問への支援

キャリアサポーター12名が、首都圏の人気企業16社を訪問。報告書の作成。

（その他）

⑨ 大学歌の普及活動支援

全学生に周知するため、CDの作成・配布。

4. 「各同窓会及び校友会と山形大学との情報交換会」の開催

各同窓会から会長、副会長と大学から学長、理事、各学部長等が出席し、各同窓会及び大学の現状等について意見交換を行った。

期日：平成23年2月18日 場所：山形グランドホテル

平成22年度 山形大学校友会収支決算書

（単位：円）

1. 収入の部

区 分	予算額	決算額	増 減	備 考
会 費 収 入	21,700,000	21,510,000	△190,000	2,151人分
雑 収 入	70,000	58,195	△11,805	預金利息
前年度からの繰越	36,440,641	36,440,641	0	
合 計	58,210,641	58,008,836	△201,805	

2. 支出の部

区 分	予算額	決算額	増 減	備 考
事 業 費	17,500,000	11,508,352	5,991,648	学生支援事業 ①～⑨
運 営 費	600,000	280,390	319,610	
合 計	18,100,000	11,788,742	6,311,258	

3. 次年度繰越

収入決算額	支出決算額	次年度繰越額
58,008,836	11,788,742	46,220,094

平成23年度事業計画

1. 理事会の開催

第10回：平成23年7月7日

（議題）会長及び副会長の選出

平成22年度事業報告及び収支決算

平成23年度事業計画及び収支予算 など

（主な審議内容）

会長には相馬健一理事が選出され、今年度の事業として、次の11事業を決定しました。また、東日本大震災で被災した学生の支援策として、繰越金の中から1千万円を「山形大学被災学生支援基金」へ助成することや、被災により授業料が免除となった新入生に限り、校友会費を免除することが承認されました。

① 成績優秀な学生に対する留学支援（継続）

② 大学間交流協定大学への短期派遣留学生支援（継続）

③ 山形大学雪合戦大会支援（継続）

④ 大学祭等、学部を超えた学生の交流活動への支援（継続）

⑤ 科学で山形盛り上げ隊への支援（継続）

⑥ 公認サークルへの支援（継続）

⑦ 学生中心に行う首都圏での企業訪問への支援（継続）

⑧ 大学歌の普及活動支援（継続）

⑨ 「業界セミナー」並びに「OB・OGフォーラム」支援（新規）

⑩ 東日本大震災復興支援ボランティア派遣事業支援（新規）

⑪ 予備費（校友会会報の発行など）

2. 会報（創刊号）の発行

設立5周年を機に、会員各位へ校友会の活動内容等を広く紹介すると共に、より多くの本学関係者の皆様にご理解・ご協力いただくため、会報（創刊号）を発行する。

3. 「各同窓会及び校友会と山形大学との情報交換会」の開催

期日：平成24年2月17日 場所：山形グランドホテル

成績優秀な学生に対する留学支援

海外語学研修で学んだこと

人文学部(2年) 川田 希さん

留学先: カナダ 期間: 2011年2月13日～3月7日

春季休業の3週間を利用し、カナダのバンクーバーで語学研修を行ってきました。バンクーバーはカナダ国内で第8位の人口規模を持つ大都市です。街は様々な人種の人々で溢れ、髪や肌の色がみんな異なっています。日本ではありえない光景なのではじめは圧倒されました。日本で決して味わうことのできない「人種のサラダボール」を体感することができ、貴重な体験でした。街の人々は温かくて友好的だと感じました。1人で街を歩いていると何度か声をかけられ、バンクーバーの見どころを教えてくださいました。また、すれ違う女性は目が合うとたいい微笑みかけてくれます。初めて1人で訪れた海外で不安だらけでしたが、彼らの優しさがすべて吹き飛ばしてくれるようでした。

バンクーバーでは市内を走る路線バスやタクシーのほとんどすべてがハイブリッドカーです。バンクーバーは2010年に冬季オリンピックの開催地になったことから、環境問題への取り組みが盛んで、人々もエコについての関心が高いようでした。バンクーバーは、海、森、山に囲まれていて、豊かな自然で有名なのでそれらを守ろうという意識が強いようです。一歩先を越されているように感じました。

滞在期間の3週間はホームステイを経験しました。ホストファミリーにはバンクーバーの気候、食事文化や、行事、教育事情、家庭事情、住宅事情について教えていただきました。一般家庭に滞在できたからこそ知ることができたのだと思います。異文化の中で生活する人



の話を聞き、実際に体験することで、本を読んで学ぶより深く理解することができたと思います。

語学学校では、「English Only」という母国語使用を禁止する規則が徹底されていました。そのおかげで3週間目にはほとんど頭で翻訳をしなくても、思ったことを自然に英語で口に出すことができるようになりました。帰国し、母国語で会話するようになった今はその力が少しずつ衰えているのを感じます。英語しか話せない、また英語しか聞こえてこない環境に身を置き、無理やりにでも英語を使う状況を作ることで、自然と話せる能力が身に着いたのだと身をもって実感しました。

初めての1人での海外渡航で不安だらけでしたが、サラダボールの中で一人ひとりが当たり前のように歩いている様子に感動し、なんだか勇気が湧きました。それからは初めての街を1人で探索したり、自分から声をかけたりと、積極的になりました。今までの自分には考えられないことなので、まるで新しい自分に生まれ変わったようです。ホストファミリーや研修先でできた友人とは今でも連絡を取り合っています。初めてできた海外の知り合いとやりとりすることで、「世界は狭い」という言葉を改めて感じています。

このような貴重な体験をさせていただき、語学研修を支えてくださった方々に心から感謝しています。ありがとうございました。

大学間交流協定大学への留学支援

留学報告

地域教育文化学部(2年) 大沼 美雪さん

留学先: エストニア・タリン大学 期間: 2011年1月～6月

私が留学を決意したきっかけは、大学1年生の夏に参加したSummer Projectがきっかけでした。当時エストニア自体に興味があったわけではなかったのですが、とにかく「外国に行ってみたい!」という気持ちで参加しました。実際エストニアを訪れて初めてその国の良さがわかり、友人も数名でき、いつかまたこの国に戻ってきたいと強く思いました。また、その時まで日本から出たことのなかった私は強くカルチャーショックを受けると同時にもっとたくさんのことに気付き視野を広げたいと思い、半年間の留学を決意しました。

しかし実際留学してみれば、いつまでたっても現地の生活に慣れることができず、英語の上達の気配はなく、授業は出席しているだけで精一杯で毎日自分という存在を維持するのに必死でした。それに加え生活しているとだんだんその国の悪い面や国民性に触れるようになり、なんでここに来ただけ、と考えてしまう日もありました。

悪いことは続くもので、そんな時に日本では震災が起り、私が弱音を吐いている場合ではなくなってしまいました。しかし、そんな時に山形の友人から「日本は今大変だけど、せっかくの機会なんだから楽しまなきゃダメだよ」という言葉をもらい、せっかく親に無理言って来させてもらったのにこのままじゃダメだ!と思い、また頑張ろうと思えました。それからは無理しない程度にイベントに参加したり留学生と関わっていきなりして、だんだん楽しいと感じられる



ようになりました。また、フラットメイトの家に友達と遊びに行ったり、1年の時にエストニアの次に訪れたフィンランドの友達の家に遊びに行ったり、友達とのつながりを深めることができました。授業は相変わらず大変でしたがこちらも友人から教えてもらったりしてなんとか最後まで頑張ることが出来たと思います。

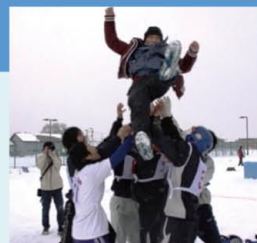
この留学を通して私が得たものは、やはり「行動力、実行力」だと思います。当たり前と言えば当たり前のことですが、自分が動かなければ事態は何も好転しません。友達だってそうです。タリン大学の留学生のほとんどがヨーロッパ人で、なかなかアジア人に話しかけてくれる人はいませんでした。しかし自分から話しかけに行けばどんどん話してくれるし、英語があまり得意でなくとも友達を作ることができました。とにかく「自分から動くこと」、この大切さを知ることができました。

もともと私の留学の一番の目的は自分をいろいろな面で成長させる事でした。この留学を通して本当に良い経験が出来たと思いますし、そのすべてが今の自分につながっていると思います。これが良い方向なのかどうかは今はまだわかりませんが、この留学で得た事を絶対に無駄にしない人生にしていきたいと思っています。この留学に関わってくださったみなさん、本当にありがとうございました。

第2回山形大学雪合戦大会 支援

平成23年2月12日(土)、工学部グラウンドにて「山形大学雪合戦大会」を開催しました。本大会は、今年で2回目の開催で、雪国発祥のスポーツである雪合戦を通して学部間交流を深めることを目的としております。

当日は、各キャンパスより15チーム、175人の参加があり、公認ルールで進められ、寒さにも負けない熱戦の数々で、大会は大いに盛り上がりました。



サークル活動への遠征支援

山形大学女子バスケットボール部は、総部員13名、大神監督のご指導の下、日々練習に取り組んでいます。普段は、毎日の放課後の練習に加え朝練習でシューティングも行っています。長期休暇には遠征もあり、昨年は特に9月末に行われた台湾国際大会への参加がチームにとって大きな経験となりました。海外のチームとの試合を通じて、体格やプレイスタイルの違いを肌で感じながらも、自分たちの通用するものを掴むことができ、チームとして成長することができた大会だったと思います。昨年までの成績は、東北リーグ6連覇・16回目の優勝、全日本インカレでは5年連続ベスト8入



賞を果たすことができました。今年はベスト4の壁を越えるため、「明るく元気に一生懸命」をモットーに、どんな時も山大らしいバスケットで、インカレ制覇を目標にチーム一丸となって頑張っていきます。

(マネージャー 福田 美波 記)

山形大学OBセミナー

去る、3月5日(土)に本学の東京サテライト(田町)で、恒例となった「OBセミナー」を開催しました。

首都圏各地から多数のOBの方々にご参加いただき、講演会・交流会を通して、山形大学の現状をご紹介しますとともに、首都圏の同窓生同志の交流の場にもなっています。

本セミナーは、今回で6回目をむかえ、山形大学と同窓会の皆様との結束がより一層深まる、一大イベントへと発展しています。



山形大学 河田先生の講演
「生活習慣と健康・長寿」

学長と一緒に記念撮影



新入生保護者の皆さまと 山形大学との交流会

山形大学では、去る7月23日(土)14時から小白川キャンパス基盤教育2号館を会場に、「平成23年度 新入生保護者の皆さまと山形大学との交流会」を開催いたしました。

この交流会は、新入生の保護者相互、保護者と教職員との親睦や交流を深めるとともに、大学運営の実情や教育・研究等について理解を深めていただくため実施しているものです。

今年で3回目を迎えた交流会には、全国から300人を超える新入生保護者の方に参加いただきました。今回は東日本大震災の影響で4月に入学式ができなかったこともあり、例年になく多くの保護者の方に参加いただきました。

交流会は、地域教育文化学部音楽芸術コースの学生による「大学歌」と「学生歌」の斉唱に始まり、最初に、結城学長からあいさつがあり、東日本大震災により入学式ができなかったことへのお詫びや、本学は何よりも学生を大切にし、学生教育中心の大学創りを基本理念としていることなど、力強いメッセージがありました。

引き続き、「山形大学の『基盤教育』がめざすもの」と題し、基盤教育実施会議議長の須賀一好教授による講演、次いで、「放射線と健康について」と題し、医学部附属病院がん臨床



センター長である根本建二教授からの講演がありました。いずれも関心の高いテーマであり、保護者の方からのアンケートにおいても、本学のめざす基盤教育の方向性や放射線と健康への理解を大いに深めることができた、との声を多数いただきました。

講演会直後には、学生花笠踊りサークル「四面楚歌」による花笠回しが披露され、ヤッショマカショのかけ声で、会場はとても賑やかな雰囲気になりました。

講演会終了後には、会場を移動し、保護者の方と各学部のアドバイザー教員も交えて和やかに懇談が行われ、交流会イベントは盛会のうちに終了となりました。

東日本大震災ボランティア活動の紹介

3月11日の東日本大震災において、東北地方に未曾有の被害をもたらしたことから、本学としては、被災地の復旧、復興に向けて、次のようなボランティア活動を行っております。

- 学生、教職員が県内の被災者避難場所で、支援物資の運搬、仕分け等。
- 山形大学と東北芸術工科大学の連携プロジェクト「スマイルトレード10%」では、5月からボランティアを被災地に送り出す「スマイルエンジン山形」のバスを運行し、多くの学生、教職員、一般の方々が参加。主に石巻市で市街地や被災者宅の瓦礫撤去、側溝のヘドロかき出し、仮設住宅への緑のカーテン敷設等。
- 本学基盤教育（旧教養教育）の「実践的キャリア教育学」の授業では、仙台市における被災者宅の瓦礫撤去、清掃、ボランティアセンターの支援等。塩釜市浦戸桂島における瓦礫撤去、清掃、支援物資の搬送等。本吉郡南三陸町の仮設住宅における炊き出し。被災地に不足する生野菜を被災地に届けるため、山形市内の農場にて野菜を有機栽培で育てるボランティア。県内観光地のお祭りでの義援金の募集活動等。
- 工学部からは「チーム米沢」として、学生や教職員のボランティアを被災地の東松島市等に送り出し、瓦礫撤去等。
- 工学部学生のボランティア活動として、卒業生や一般の方々から使用しない家電や家具を回収し、県内に避難してきた被災者の方々に無料で提供するリユース活動。
- 農学部学生のボランティア活動「走れ!!わあ(私)のチャリ」として、被災地で需要が高い自転車のリユース活動。
- その他、医学部の医師、看護師等を含め、被災地や避難場所で数多くの活動を行っています。

本校友会は、これらの活動資金として、本年度の事業費に100万円を計上しており、今後の各種活動に支援する予定です。



「スマイルエンジン山形」での側溝のヘドロかき出し作業



「実践的キャリア教育学」での炊き出し作業

「ホームカミングディ」のご案内

大学の近況に触れ、旧友や懐かしい恩師と再会し、親睦・交流を深めていただくため、小白川キャンパス及び米沢キャンパスで「ホームカミングディ」を開催します。

卒業生の皆様、是非この機会に、ご友人をお誘い合せの上、お越しください。

- 小白川キャンパス（人文、地域教育、理学部）
平成23年10月15日（土） 11:00～

- 米沢キャンパス（工学部）
平成23年10月8日（土） 12:00～

なお、詳細については、本学ホームページでご確認願います。

小白川キャンパス



米沢キャンパス



「山形大学震災復興支援基金」へのご協力依頼

去る3月11日に東北地方を襲った地震と津波は、未曾有の被害をもたらしました。山形大学においても、300人を超える学生とその家族が被災され、誠に残念なことながら本学の学生からも犠牲者が出ております。心から哀悼の意を表します。

また、米沢地区の施設、設備を中心に被害も発生いたしました。

このたびの大震災に際しては、本学に対して、多くの皆様から心温まる励ましのお言葉やご寄附のお申し出をいただいております。心から感謝申し上げます。

これらのお申し出を受け、「山形大学震災復興支援基金」を創設することにいたしました。寄附金は、震災で被災した本学の学生の修学、研究、生活等の支援及び本学の教育研究環境の整備のための資金として、大切に活用させていただきます。

何とぞこの趣旨をご理解いただき、格別のご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成23年4月

国立大学法人山形大学長 結城 章夫

<申込み方法>

寄附金は「銀行振込」によりお受けいたします。

詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。下記までお問い合わせ願います。

本件のお問い合わせ先：山形大学総務部総務課

〒990-8560 山形県山形市小白川町 1-4-12

TEL：023-628-4004 FAX：023-628-4013

山形大学校友会会則

- (名称)
第1条 本会は、山形大学校友会と称する。
- (所在地)
第2条 本会は、事務所を山形市小白川町山形大学内に置く。
- (目的)
第3条 本会は、山形大学（以下「本学」という。）の学生の学業及び課外活動への助成等学生生活の全学的な活動に支援を行うとともに、各キャンパス間の一体感を醸成し、加えて会員相互の親交を図ることを目的とする。
- (事業)
第4条 前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
(1) 学生の修学支援
(2) 学生の課外活動支援
(3) 学生の就職支援
(4) 保護者との連携支援
(5) その他必要と認めること。
- (会員)
第5条 本会は、次の各号のうち会費を納入した者及び本会の趣旨に賛同し寄附をした者をもって構成する。
(1) 本学の学生（保護者の場合を含む。）
(2) 本学の卒業生
(3) 本学の役員及び教職員（退職者を含む。）
(4) 前号に掲げる者以外の本学に関係する者
- (会議)
第6条 本会に理事会を置く。
- (理事会)
第7条 理事会は、毎年1回以上開催し、次のことを行う。
(1) 役員選出に関すること。
(2) 事業計画に関すること。
(3) 予算及び決算に関すること。
(4) その他本会の目的達成のために必要なこと。
- (決議の方法)
第8条 理事会は、出席者の過半数をもって議決する。
- (役員)
第9条 本会に次の役員を置く。
(1) 会長 1人（理事との兼職）
(2) 副会長 2人（理事との兼職）
(3) 理事 24人以内
(4) 監事 2人
(5) 顧問 1人
2 役員の任期は2年とする。ただし、再選を妨げない。
3 補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。
4 役員は無報酬とする。

- (選任)
第10条 役員の選任は、次のとおりとする。
(1) 会長及び副会長は、理事の互選とする。
(2) 理事は、次の区分により選出する。
ア 学生の保護者等 7人（各学部等後援会から1人）
イ 役員及び教職員 8人（エンrollment・マネジメント担当理事1人、各学部教員から1人、事務職員1人）
ウ 本学の卒業生 6人（各学部等同窓会から1人）
エ 学長が推薦する者 若干人
(3) 監事は、本学の卒業生1人及び本学の退職者1人を選出する。
(4) 顧問は、本学の学長をもって充てる。
- (任務)
第11条 役員の任務は、次のとおりとする。
(1) 会長は、本会を代表し、会務一切を総括するとともに、理事会を招集して会議の議長となる。
(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その代理を務める。
(3) 理事は、理事会を構成し、本会の事業運営に当たる。
(4) 監事は、本会会計を監査し、理事会に報告する。
- (専門委員会)
第12条 校友会に関する専門的事項を審議するため、理事会に山形大学校友会専門委員会（以下「専門委員会」という。）を置く。
2 専門委員会に関する規程は、別に定める。
- (経費)
第13条 本会の経費は、会費及び寄附金その他の収入をもって運用する。
2 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- (会費)
第14条 会費は、10,000円とし既納の会費は返還しない。
2 会費は、本学の学生（保護者の場合を含む。）においては入学手続きの際、その他の会員においては入会時納入するものとする。
- (事務)
第15条 本会に関する事務は、本学エンrollment・マネジメント部において処理する。
- (その他)
第16条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関する必要な事項は、理事会において定めることができる。
- 附 則
1 この会則は、平成23年7月7日から施行する。
2 平成23年度入学者のうち、東日本大震災の被災により、平成23年度に係る前期分の授業料免除（半額免除含む）となった学生（大学院生含む）に限り、第14条に規定する会費の納入を免除するものとする。
3 前項該当者のうち、会費を納入した者については、第14条の規定にかかわらず、既納の会費を返還するものとする。

山形大学校友会 入会の申し込み

本会の趣旨にご賛同のうえ、別紙「払込取扱票」へ必要事項をご記入いただき、「郵便振替」によりお振込みください。会費の納入により入会の申込みとさせていただきます。

- 会 員：
次の各号のうち会費を納入した者及び本会の趣旨に賛同し寄附をした者
(1) 本学の学生（保護者の場合を含む）
(2) 本学の卒業生
(3) 本学の役員及び教職員（退職者を含む）
(4) 前項以外の本学に関係する者
- 会 費： 10,000円（生涯会費）
- 払込方法：
別紙「払込取扱票」がお手元ない場合は、お手数ですが「校友会事務局」へご請求いただくか、郵便局に備え付けの「払込取扱票」をご利用ください。
なお、その際、次の記入例を参考に、必要事項をご記入ください。

- (通信欄記入例)
卒業生の場合：○年度卒業（修了）、○学部（大学院）
退職者の場合：退職時の部局名
趣旨賛同者の場合：趣旨賛同旨表示、個人、法人名
- 払込時期：
入会申込みは、随時受け付けておりますが、新入生（学部、大学院共）については、入学手続き時に、諸会費の納入と合わせて行っております。
 - 振替口座（ゆうちょ銀行）：
次の「山形大学校友会」名義の振替口座へお振込みください。
なお、専用の「払込取扱票」以外の場合は、振込手数料を別途ご負担願います。
口座番号：02200-7-89697

山形大学 大学歌

作詞：石先 麻美・難波 千鶴
作曲：大谷 靖夫
編曲：中村 康就

山形大学大学歌は、平成21年に創立60周年を記念し、歌詞の募集を行い、当時地域教育文化学部4年在学中の石先麻美さんと難波千鶴さんの作品が選ばれました。作曲は山形市出身の作曲家大谷靖夫氏に依頼し、平成22年3月に本学大学歌として制定されました。

大学歌
ダウンロードは
こちら



大学のホームページからも
ダウンロードができます。

- 1 春風に 希望をのせて
桜の光 仰ぎ見る
若葉の緑 きらめいて
力みなぎる 若き瞳
決意を胸に 手をつなぐ
我らが学び舎 山形大学
- 2 知を深く 真理を求め
語りあかそう 集い来て
星のまたたき 想い馳せ
学びを拓く 強き瞳
己を信じ 進みゆく
我らが学び舎 山形大学
- 3 はるかなる 未来を照らし
流れる川の 絶え間なく
日々を彩る 雪模様
次代を担う 明き瞳
夢を抱いて はばたこう
我らが学び舎 山形大学

山形大学ロゴマーク



本学のロゴマークは、21世紀を迎えて、本学の更なる発展を期し、学生・教職員の一体感を高めるに相応しいシンボルとして定められています。

山形大学の山の字をモチーフにしてデザインされました。色は緑豊かな山形をイメージ。

これからの山形大学がますます活気の溢れた勢いのある大学になるようにとの願いが込められています。

ロゴマークデザインについては、2001年4月から8月までの5ヶ月間、学生・卒業生・教職員など本学関係者を対象に公募、32名の方から計74点のご応募をいただき、本学ロゴマーク・校旗制定委員会において学内人気投票の結果等を参考に厳正な審査を行い、教育学部4年生（当時）の千葉麻理子さんのデザインを選定・補作の上、本学の新しいロゴマークデザインとして決定されたものです。マークには、「これからの山形大学がますます活気の溢れた勢いのある大学になるように」との熱い願いが込められています。

編集後記

本年3月に実施した学生満足度調査で、設立してまだ日が浅い但也有ありますが、「山形大学校友会」の活動内容があまり知られていない結果となりました。そこで設立5周年を機会に、会員各位へ活動内容等を広く紹介すると共に、より多くの本学関係者の皆様にご理解・ご協力をいただきたく、会報（創刊号）を発行することになりました。

創刊にあたり、本会の設立にご理解・ご尽力いただいた、各学部同窓会や後援会等に改めて感謝するとともに、今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。

山形大学の強力なサポーターを目指し、広報活動等に更なる努力・・・（S・O）

山形大学エンrollment・マネジメント部 山形大学校友会事務局

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12
TEL: 023(628)4867 FAX: 023(628)4185
E-mail: ykouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〈校友会ホームページ〉
<http://www.yamagata-u.ac.jp/ykouyu/>